



REFERENCE PRODUCTION MONITORS
With USB AUDIO INTERFACE




RPM3



クイック・スタート・マニュアル

安全にお使いいただくために

この取扱説明書で使用している危険防止のマーク

-  このマークは、操作とメンテナンスにおける重要な指示があることを示しています。
-  このマークは、適切な電圧で機器を使用しないと、感電の恐れがあるという警告です。
-  このマークは、ご利用の出力コネクタが感電を起こす恐れのある電圧を含んでいるという警告です。

製品をご使用の際は、使用上の注意に従ってください。

1. 注意事項を読んでください。
2. 注意事項を守ってください。
3. すべての警告に従ってください。
4. すべての注意事項に従ってください。
5. 水の近くで使用しないでください。
6. お手入れの際は、乾いた布を使用してください。
液体洗剤は、フロントパネルのコントロール装置を損なったり、危険な状態を招いたりする恐れがあるので、使用しないでください。
7. 取扱説明書に従って設置してください。
8. 暖房器具や調理器具、アンプを含むその他の音楽機器など、熱を生じる機器の近くには、置かないでください。
9. 電源プラグは、危険防止のために、正しく使用してください。アース端子付の電源プラグは、2つのブレードのほかに棒状のアース端子が付いています。これは、安全のためのものです。ご利用のコンセント差込口の形状に合わないときは、専門の業者にコンセントの取り替えを依頼してください。
10. 電源コードを誤って踏んだり、挟んだりしないように注意してください。特にプラグ部、コンセント差込口、本装置の出力部分に注意してください。
11. 付属品は、メーカーが指定しているものを使用してください。
12. 音響機器専用の台車、スタンド、ブラケット、テーブルに載せて使用してください。設置の際、ケーブルの接続や装置の設置方法が、損傷や故障の原因にならないよう注意してください。
13. 雷が鳴っているときや、長時間使用しないときは、プラグを抜いてください。
14. 修理やアフター・サービスについては、専用窓口にお問い合わせください。電源コードやプラグが損傷したとき、装置の上に液体をこぼしたり、物を落としたりしたとき、装置が雨や湿気にさらされたとき、正常に動作しないとき等、故障の際は、修理が必要となります。
15. 本装置は、正常に動作していても熱を発生しますので、周辺機器とは最低 15 センチ離し、風通しの良い場所でご利用ください。
16. 本装置をアンプに接続して、ヘッドフォンやスピーカで長時間、大音量で使用すると、難聴になる恐れがあります。(聴力低下や、耳鳴りを感じたら、専門の医師にご相談ください)。
17. 水がかかるような場所に置かないでください。花瓶、缶 飲料、コーヒーカップなど、液体が入ったものを本装置の上に置かないでください。
18. 警告：火災や感電防止のため、雨や湿気にさらさないでください。

[WEB] <http://www.akai-pro.jp/>

[MAIL] info@akai-pro.jp

AKAI
professional

<お問い合わせ>

株式会社ニューマークジャパンコーポレーション
カスタマ・サポート部

〒106-0047 東京都港区南麻布 3-19-23

オーク南麻布ビルディング 6F

TEL : 03-6277-2230 FAX : 03-6277-0025

同梱品目

次の品目がすべて同梱されていることを確認してください:

- スピーカー本体
- 電源ケーブル
- USB ケーブル
- ミニ・フォン・ケーブル
- クイック・スタート・マニュアル (保証書は巻末にございます。)

本製品をご使用になる前に必ず安全指示書・保証書をお読み下さい!

イントロダクション

この度は AKAIprofessional RPM3 お買い求めいただきありがとうございます。

RPM3 は、様々なタイプの方々にご使用いただけます。パイ・アンプ設計、アクティブ・クロスオーバー、絶妙に調整されたウーファー/ツイーター・コンビネーションが、音に色付けすることなく正確に再生します。これらのスピーカーは、“音の顕微鏡”のように音の細かなニュアンスまで再現しますので、より良いミックスをモニターする手助けになることでしょう。

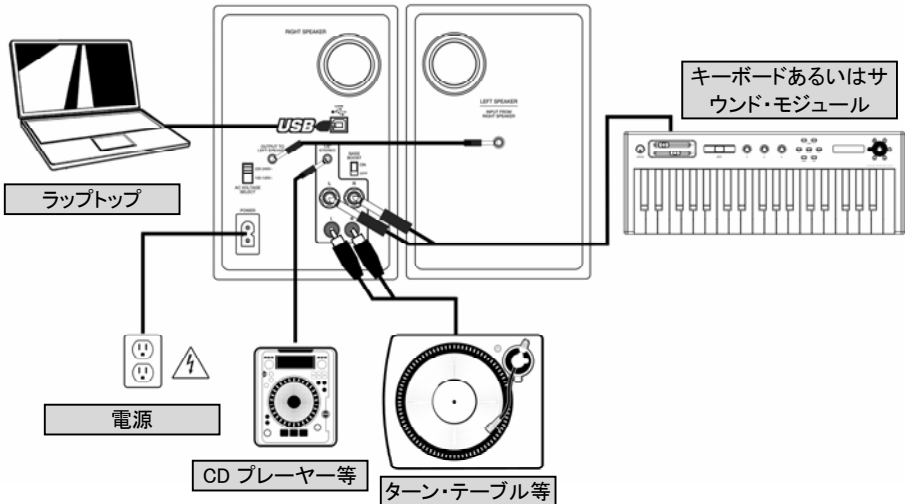
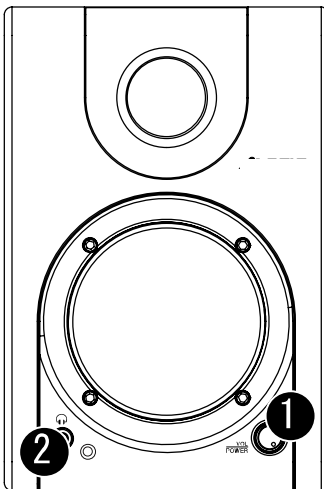
RPM3 は、優れたスピーカー・デザインに加えて、USB1.1 端子と 3 系統の音声入力を装備しています。使い方は簡単、コンピューターを接続するだけです。RPM3 は、コンピューターのオーディオを再生するだけでなく、スピーカー背面の入力端子に外部音声機器を接続することで、その音をコンピューターにレコーディングすることができます。他の音声機器は必要ありません。

RPM3 を末永くご使用いただけますようお願いしております。

AKAIprofessional 社員一同

接続例

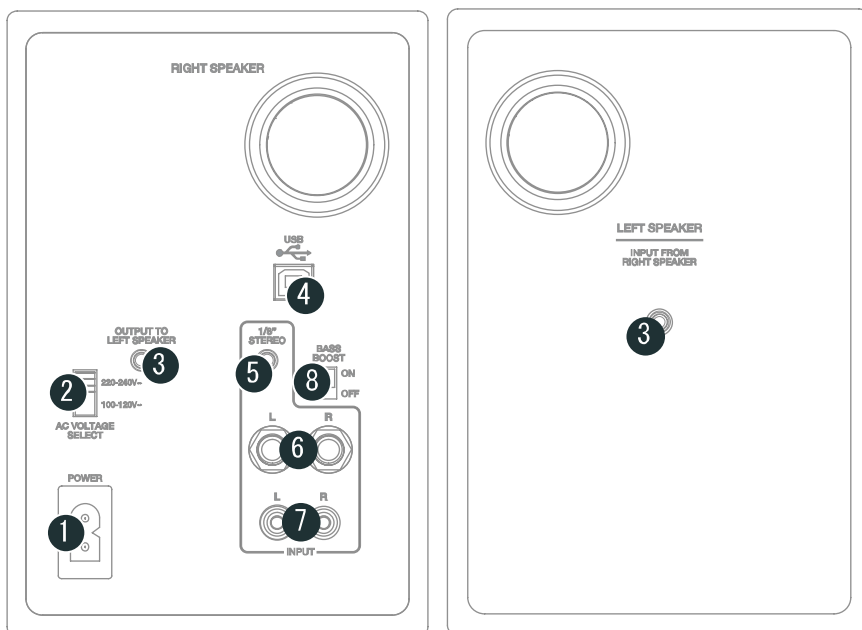
RPM3 の接続例を記載しますので参考にしてください。

**フロント・パネル外観**

右スピーカー

1. VOL/POWER - このノブで RPM3 の電源を入れ、ボリュームを調整します。電源を入れるには、このノブを右に回します。回した時にクリックが感じられたら電源が入り、スピーカーの左にある青い LED が点灯します。電源を切るには、このノブを左に回しきります。電源を切ると、LED が消灯しスピーカーの電源がオフになります。

2. HEADPHONES - ミニ・フォン端子のヘッドフォンを、この出力に接続します。この出力にヘッドフォンが接続されていると、スピーカーからは音が出ませんので注意してください。スピーカーから音を出したい場合は、ヘッドフォンを外してください。

リア・パネル外観

- 1. POWER** - 同梱の電源ケーブルで本体とコンセントを接続します。2 番の AC VOLTAGE SELECTOR が、使用する国の電圧に設定されていることを確認してください。
- 2. AC VOLTAGE SELECTOR** - この 2 接点スイッチで、電源電圧を選択します。日本、米国で使用する場合は、このスイッチを“100-120V”に、英国及びヨーロッパ諸国で使用する場合は、“220-240V”に設定します。
- 3. OUTPUT TO LEFT SPEAKER** - この端子で左スピーカーと接続します。同梱のミニ・フォン・ケーブルで右スピーカーと左スピーカーを接続します。
- 4. USB (1.1)** - 同梱の USB ケーブルで、この端子とコンピューターを接続します。
RPM3 は、プラグ・アンド・プレイ対応機器なので、特別なドライバーのインストールは必要ありません。接続するだけで、すぐに使用することが出来ます。
- 5. 1/8" STEREO INPUT** - ミニ・フォンのステレオ・ケーブル(同梱されていません)を使用して、外部音声機器を接続します。
- 6. 1/4" TS INPUTS** - 標準 TS フォーンケーブル(同梱されていません)を使用して、外部音声機器を接続します。
- 7. RCA INPUTS** - ステレオ RCA ケーブル(同梱されていません)を使用して、外部音声機器を接続します。
- 8. BASS BOOST** - この 2 接点スイッチで、低域をブーストして出力します。

USB ハブを使用して問題が発生したら、M1Active 320 USB スピーカーとコンピューターを直接接続してください。

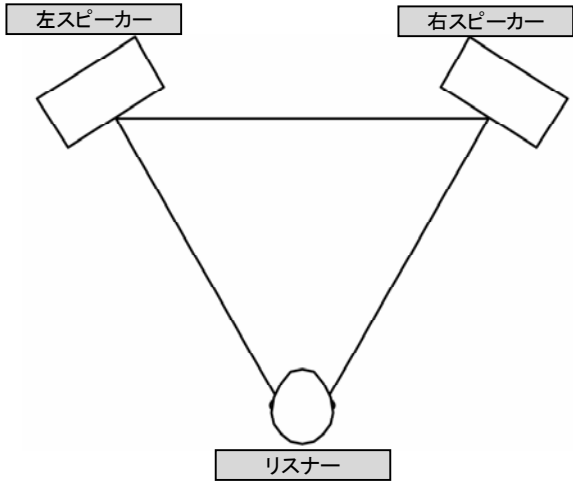
3 系統の入力は、すべてミックスされてステレオ・ペアでコンピューターに入力されます。

スピーカーの配置

スピーカーの配置は、スタジオでスピーカーの能力を発揮させる上で大変重要です。

ニアフィールド・スタジオ・モニターは、自由に配置出来るように設計されていますが、リスナーとスピーカーを直線で結んだ時に、できるだけリスナーを頂点にした正三角形になるように配置してください。言い方を変えると、リスナーの頭とそれぞれのスピーカーが等距離になるように配置します。位置が決まったら、スピーカーを回転させてドライバーがリスナーの方を向くように調整します。

右図のように、リスナーとそれぞれのスピーカーの距離が、スピーカー間の距離と同じになるように配置します。さらに、ドライバーがリスナーの方を向くように、スピーカーを回転させます。



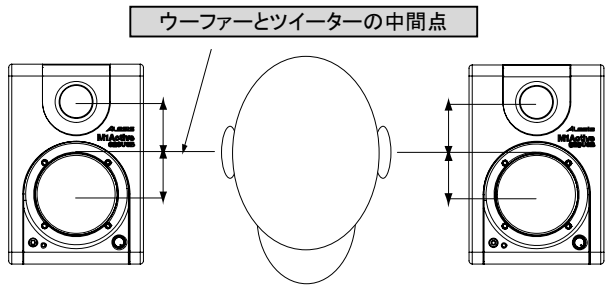
この配置が理想的ですが、これが難しいあるいは不可能な場合は、出来るだけこの配置に近づけるようにしてください。

2つのスピーカーとリスナーが、正三角形のそれぞれの頂点に位置するように配置します。

スピーカーの高さ

RPM3の理想的な高さは、スピーカーを垂直に立てた状態で、ウーファーとツイーターの中間点がリスナーの耳の位置になる高さです。

右図は、リスナーとスピーカーの高さの理想的な関係を示しています。リスナーの耳の位置がウーファーとツイーターの間になるようにしてください。



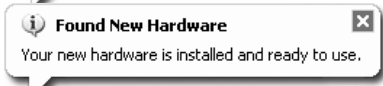
可能であれば、スピーカー・スタンドを使用して RPM3 とデスク(あるいはミキサーのメーター・ブリッジ)を離すようにしてください。RPM3 とデスク(ミキサー)を離すことで、デスクに音が反射してモニター音に悪影響を及ぼす度合いを少なくすることが出来ます。

WINDOWS の設定

RPM3 は、Windows XP/Vista のパソコンで使用する場合、プラグ・アンド・プレイに対応していますので、特別なドライバーをインストールする必要はありません。RPM3 の電源を入れて、RPM3 とパソコンを USB ケーブルで接続すると、必要なドライバーが自動的にインストールされます。



最初に RPM3 とパソコンを接続する時に、左図のようなメッセージが画面に表示されます。画面のメッセージに従って操作をしてください。



この操作を一度完了すると、左図のようなダイアログ・ボックスが表示され、スピーカーが使用出来るようになります。

パソコンのデフォルト・オーディオ出力が RPM3 に設定されます。パソコンのデフォルト・オーディオ出力の初期設定画面を表示するには、スタート>コントロール・パネル>サウンドとオーディオ・デバイスの順に進んでオーディオ・タブをクリックします。



左図のような画面が表示されます。

RPM3 を音声再生機器のデフォルトに設定するには、音の再生のプルダウン・メニューから USB Audio CODEC を選択します。

ティップ: サウンドと音声機器でウィンドウズのシステム・サウンドをオフすることを推奨します。この設定をすることにより、セッションの最中にウィンドウズのシステム音がスピーカーから出ることを防ぐことが出来ます。設定方法は、サウンド・タブをクリックして、サウンド設定のプルダウン・メニューからサウンド無しを選択します。

RPM3 を音声録音機器のデフォルトに設定するには、録音のプルダウン・メニューから USB Audio CODEC を選択します。

レイテンシーとサード・パーティー製 ASIO ドライバーについて

“レイテンシー”とは、パソコン内で音声が発生されてから、実際に音声が聞こえるまでの遅延のことを言います。レイテンシーの値が大きいと、遅延時間が長くなります。

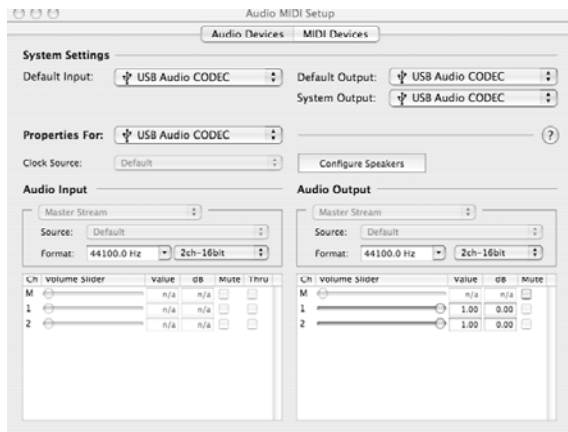
RPM3 には、ゼロ・レイテンシー・ダイレクト・モニタリング機能があります。スピーカーの背面に接続した入力機器に関しては、レイテンシーを気にする必要はありません。ただし、ソフト・シンセやソフト・インストゥルメントを使用して、その音声をモニターする場合は、レイテンシーが発生します。

一般に、レイテンシーはソフトウェアの動作に支障が出ない程度に、出来る限り低く設定します。レイテンシーとバッファ・サイズはソフトウェアの初期設定で調整することが出来ます。

ソフト・シンセやソフト・インストゥルメントを使用して、レイテンシーやタイム・ラグが大きいと感じるようでしたら、インターネットで広く一般的に使われている ASIO (Audio Stream Input/Output) ドライバーをダウンロードして使用しましょう。一般的に ASIO ドライバーはレイテンシーが小さく、オーディオ・デバイスとソフトウェアを効率的に通信します。www.asio4all.com でフリーの ASIO4ALL ドライバー(PC)をダウンロードして使用するのも良いでしょう。

MAC OSX の設定

RPM3 は、Mac OSX のパソコンで使用する場合、プラグ・アンド・プレイに対応していますので、特別なドライバをインストールする必要はありません。RPM3 の電源を入れて、RPM3 とパソコンを USB ケーブルで接続したらすぐに使用することが出来ます。



RPM3 が、パソコンの音声再生機器のデフォルトに設定されます。パソコンの音声再生機器の初期設定を変更するには、アプリケーション>ユーティリティの順に進んで Audio MIDI 設定をダブル・クリックします。

オーディオ装置タブをクリックして、システム設定のデフォルトの入力とデフォルトの出力に、それぞれ USB Audio CODEC を選択します。

DAW の設定

RPM3 を DAW の出力に設定するには

再生

RPM3 を、DAW の音声出力機器として使用することが出来るかどうかを確認します。デフォルトの音声出力機器として設定されていない場合は、アプリケーションの初期設定ダイアログで設定します。

録音

左スピーカーの背面に接続されている入力、外部サウンド・ソースとしてパソコンに直接入力されます。また、3 系統の入力は、すべてパソコンに入力される前にステレオでミックスされます。3 系統が同時に入力されると、入力信号が大きくなりクリップする恐れがありますので、過大入力にならないように、外部機器の出力を調整してください。

入力を録音する場合は、DAW の音声入力機器に RPM3 が選択されていることを確認してください。通常この設定は、アプリケーションの初期設定ダイアログで行います。

重要: 外部機器の音を録音するときは、ソフトウェア・モニタリングをオフにしてください。ソフトウェア・モニタリングがオンになっているとフィードバックを起こしてしまいます。録音しているチャンネルのモニタリングをオフにするには、ソフトウェアでそのチャンネルにミュートをかけます。

トラブル・シューティング

本製品を使用中に何か問題が起きたら、まず、この表を参考にしてください。

問題	原因	解決方法
スピーカーが動作しない。	電源ケーブルが接続されていない。	電源ケーブルがコンセントに接続されていることを確認してください。
	電源スイッチがオフになっている。	電源がオンになっていて、青いLED が点灯していることを確認してください。
	スピーカーとパソコンが接続されていない。	スピーカーとパソコンが USB ケーブルで接続されていることを確認してください。
	USB ハブを使用している。	USB ハブを使用することは極力避けて、スピーカーとパソコンを直接接続することを推奨します。
	ヘッドフォンが接続されている。	ヘッドフォンが接続されていると、スピーカーから音が出ません。スピーカーで音を聞く場合は、ヘッドフォンを外してください。
	ボリュームが最小になっている。	ボリューム・ノブを右に回して、最適な音量になるように調整してください。
左のスピーカーからしか音が聞こえない。	右スピーカーが接続されていない。	右スピーカーと左スピーカーが、付属のミニ・フォン・ケーブルで接続されていることを確認してください。
録音した外部音源からの音が歪んでいる。	外部音源の出力レベルが大き	外部音源の出力レベルを下げてください。複数の外部音源をスピーカーの背面に接続すると、それらの音源の音はすべてミックスされてからパソコンに入力されますので、各外部音源のレベルを少し下げないと過大入力になり、音が歪んでしまいます。

録音した外部音源からの音が歪んでいる。	ソフトウェア・モニタリングがオンになっていてフィードバック・ループを起こしている。	ソフトウェア・モニタリングをオフにして、外部機器からの入力がフィードバックしないようにしてください。
レイテンシーあるいはタイム・ラグを感じる。	ソフトウェアのバッファー・サイズの設定値が高すぎる。	バッファー・サイズの設定値を低くしてください。 バッファー・サイズの設定は、通常、ソフトウェアのオーディオ初期設定で行うことができます。
	オーディオ・ドライバーが適正に機能しない。	www.asio4all.com で ASIO4ALL ドライバーをダウンロードして使用してください。低いレイテンシーで快適に動作します。
再生音が途切れる	ソフトウェアのバッファー・サイズの設定値が低すぎる。	バッファー・サイズが小さすぎると、パソコンの動作が不安定になり再生音が途切れることがあります。そのような場合は、バッファー・サイズの設定値を大きくしてみてください。
DAW が RPM3 を認識していない。	ソフトウェアを起動した後で M1 RPM3 を接続した。	DAW ソフトウェアによっては、ソフトウェアを起動する前にオーディオ、MIDI 機器を接続しておかないと認識出来ないものがあります。 RPM3 を接続して電源を入れてから、再度アプリケーションを起動してください。

技術仕様

ウーファー:	3 インチ (7.5cm) 軽量、防磁処理、ポリプロピレン・コーン ハイ・パワー・ハンドリング・ボイス・コイル 40 オーム・インピーダンス
ツイーター:	1 インチ (2.5cm) シルク・ドーム
周波数特性:	80 Hz - 20 kHz
ベース・ブースト:	100Hz 時 4.8dB
電力:	10W /チャンネル RMS
S/N 比:	88dB ウェイテッド
入力:	標準 TS フォーン、RCA、ミニ・フォーン・ステレオ、USB1.1
入力インピーダンス:	20k オーム
DA コンバーター/AD コンバーター	16 bit デルタ・シグマ 44.1kHz/48kHz サンプリング・周波数
サイズ (W x H x D):	6.0" x 5.0" x 7.5" / 15.3 cm x 12.7 cm x 19.0 cm
重量:	7.5 lbs / 3.4 kg

AKAI professional 窓口 (日本国内)

株式会社ニューマーク ジャパン コーポレーション
カスタマ・サポート部
〒106-0047 東京都港区南麻布3-19-23 オーク南麻布ビルディング6階
TEL : 03-6277-2230
FAX : 03-6277-0025
Web site: <http://www.akai-pro.jp>

RPM3
サポート・コード

616 b - 6169 - 7270 - 6 d 33

無断転載、全部または一部の複製を禁ず。仕様は予告なく変更する可能性があります。



www.akai-pro.jp